船舶事故等調査報告書（軽微）

１	船舶事故	計 135 件
２	船舶インシデント	計　30 件
	合　　計	165 件

平成２１年１１月２７日

運 輸 安 全 委 員 会

船舶事故等調査報告書（軽微）一覧

（函館事務所）

1　漁船第二十一万泰丸運航不能（機関損傷）

2　漁船第八栄漁丸運航不能（機関損傷）

3　押船第５７西村丸被押起重機船第３５西村号乗揚

4　旅客船さんらいなぁ旅客負傷

5　漁船第１７進勝丸乗揚

（仙台事務所）

6　水上オートバイ平丸水上オートバイ KAWASAKI 衝突

7　水上オートバイ H－風環一号水上オートバイ KUANN 衝突

8　モーターボートNOBU運航阻害

9　漁船第八利豊丸乗揚

10　遊漁船大秀丸運航阻害

11　引き船富士丸衝突（防波堤）

12　漁船﨑吉丸運航阻害

13　漁船第二弘氣丸乗揚

14　遊漁船第一金盛丸モーターボート達磨衝突

（横浜事務所）

15　遊漁船長一丸モーターボートあさかぜ衝突

16　遊覧筏おくとろ（平成８）６号衝突（岩場）

17　モーターボート CBET 定置網損傷

18　漁船信栄丸転覆

19　漁船第二十三海援丸運航阻害

20　遊漁船佑三丸漁船第二日東丸衝突

21　遊漁船森下丸モーターボート AltairⅡ衝突

22　貨物船こちょう丸漁船第五十一住宝丸衝突

23　押船第三十七共栄丸被押バージ第三十八共栄丸モーターボートシーバードⅢ衝突

24　貨物船第十八新映丸乗揚

25　漁船第十八開洋丸乗揚

26　漁船第八大徳丸乗揚

27　漁船第三ふく丸火災

28　漁船第十六正福丸運航不能（機関損傷）

29　貨物船清潮丸衝突（消波ブロック）

30　貨物船吉福善丸乗揚

31　モーターボート MINI COOPER 転覆

32　貨物船第八大福丸乗揚

33　貨物船第二成和丸乗揚

34　モーターボート MINAMO M7 乗揚

35　貨物船KEOYOUNG SEVEN座洲

36　ケミカルタンカー第三新興丸乗揚

37　貨物船 MARINE PRIME 乗揚

38　漁船第十一小浜丸乗揚

39　モーターボート KAZE 浸水

（神戸事務所）

40　漁船福元丸モーターボート海晴丸衝突

41　モーターボートLIBRA OCEAN運航不能（機関損傷）

42　ＬＰＧ船あさひえーす運航阻害

43　漁船第二十八結城丸運航阻害

※下線付き番号は、インシデント

44　漁船第１５住田丸漁船達栄丸衝突
45　漁船第五十二大慶丸施設損傷（養殖筏）
46　漁船第十一長久丸運航阻害
47　貨物船第五金勢丸乗揚
48　貨物船ほくと運航不能（機関損傷）
49　貨物船 YUAN ZI 引船 BOSUNG T-5 引船列衝突
50　漁船明丸乗揚
51　水上オートバイ RYOUSEIMARU 水上オートバイ麗音丸衝突
52　貨物船麗女丸運航阻害
53　漁船栄光丸火災
54　貨物船日鋼丸衝突（岸壁）
55　貨物船進成丸乗揚
56　引船第十八きさ丸運航不能（舵故障）
57　貨物船翔海丸乗揚
58　モーターボート忍運航不能（蓄電池過放電）
59　貨物船第三十八芳成丸乗揚
60　遊覧船１３２号乗客負傷
61　遊漁船昭漁丸乗組員負傷
62　旅客船スプラッシュⅡ運航阻害

（広島事務所）

63　モーターボート広八世乗揚
64　油送船第十一くれない丸運航不能（機関損傷）
65　貨物船日伸丸運航不能（機関損傷）
66　引船ゆか丸運航阻害
67　モーターボート瑞龍衝突（かき養殖施設）
68　モーターボート Astraea ウェイクボーダー負傷
69　貨物船第八金生丸運航不能（機関損傷）
70　旅客船さんふらわあこがね運航阻害
71　水上オートバイブラックパールⅡ同乗者負傷
72　押船第十八栄伸丸被押バージ（船名不詳）乗揚
73　漁船第一海洋丸漁船第五明神丸衝突
74　貨物船ふくよし丸乗揚
75　漁船浜重丸漁船勝喜丸衝突
76　ヨット NIKO 乗揚
77　モーターボート Sea Breeze 火災
78　漁船一栄丸漁船鉄丸衝突
79　貨物船弘栄丸漁船末吉丸衝突
80　クレーン付台船Ｔ－２０損傷（送電線）
81　モーターボート森田丸漁船清丸衝突
82　旅客船シャトルすた一衝突（桟橋）
83　瀬渡船第六友勝丸衝突（養殖施設）
84　貨物船栄興丸漁船さかえ丸衝突
85　旅客船第三十五神勢丸衝突（防波堤）
86　旅客船シャトルえーす乗揚
87　漁船第三十一住宝丸貨物船ニューたいこう衝突
88　貨物船せどろす貨物船第三十五住若丸衝突
89　貨物船平成丸座洲

※下線付き番号は、インシデント

90　貨物船泰山乗揚
91　旅客船ブルーライン衝突（岸壁）
92　モーターボートとな丸浸水
93　貨物船第二はる丸衝突（岸壁）
94　漁船武丸転覆
95　貨物船第一錦洋丸運航不能（機関損傷）
96　貨物船 TRITONIA 貨物船 BASIC RELIANCE 衝突
97　引船第二十六あんぜん丸沈没

（門司事務所）

98　漁船第八幸慎丸運航不能（機関損傷）
99　貨物船 C.D.INCHON 乗揚
100　漁船第五日昇丸衝突（岩礁）
101　旅客船ドリームアクアマリン運航阻害
102　漁船豊福丸衝突（防波堤）
103　貨物船 TROPICAL BREEZE 漁船栄福丸衝突
104　引船わかしお運航阻害
105　漁船旭洋丸乗揚
106　モーターボート和恵Ⅱ転覆
107　漁船第十六昭丸乗揚
108　遊漁船海成丸乗揚
109　貨物船ニューたいこう漁船大新丸衝突
110　漁船第七十八新栄丸乗揚
111　漁船第五海幸丸漁船まさ丸衝突
112　漁船ひろき丸乗揚
113　貨物船 LONDON SPIRIT 貨物船第五青鷹衝突
114　貨物船満喜丸乗揚
115　潜水艦おやしお警戒船第二十八亀丸衝突
116　漁船第八明栄丸漁船第三幸祥丸衝突
117　貨物船 M.KIMITSU 乗揚
118　押船早鞆丸被押バージようこう乗揚
119　漁船海王丸モーターボートピラー衝突
120　貨物船新北王丸乗揚
121　瀬渡船蛭子丸乗揚
122　貨物船富士丸衝突（岸壁）
123　貨物船 SOON YANG 乗揚
124　貨物船 CAPE CANET 漁船蛭子丸衝突
125　引船第十六三垂丸乗揚
126　漁船第六悦丸乗揚
127　貨物船 MEERKAT 漁船妙見丸衝突
128　ヨット BE CALM 乗揚
129　水上オートバイ２００９ＦＸ水上オートバイＦＸクルーザー２００７衝突
130　漁船孝栄丸転覆

（長崎事務所）

131　漁船せつ丸モーターボート愛海衝突
132　漁船義恵丸乗組員負傷
133　貨物船第十八妙見丸衝突（橋桁）
134　漁船恵三丸遊漁船光栄丸衝突
135　油送船第三近祥丸乗揚
136　モーターボートアテナ乗揚
137　漁船勝栄丸乗揚
138　漁船涼子乗揚
139　貨物船 HAI XIANG 衝突（水門）
140　貨物船大伸丸漁船京栄丸衝突
141　モーターボート第２あかね丸衝突（橋脚）

※下線付き番号は、インシデント

142　漁船善生丸モーターボートてつしごん衝突
143　作業船スカイラーク乗揚
144　モーターボート勝柳丸乗揚
145　押船めいゆう丸被押ボックスバージＢ－１５０５乗揚
146　貨物船第一トクヤマ座洲
147　モーターボートDRAGONⅢ施設損傷（定置網）
148　警備艇でじま乗揚
149　モーターボートKS運航不能（機関損傷）
150　漁船朗風丸火災
151　モーターボート泰弘漁船第二末広丸衝突
152　モーターボート美津丸乗揚
153　漁船大福丸乗揚

（那覇事務所）

154　モーターボートQue-Sera-Sera－Ⅰ乗組員負傷
155　漁船前浜乗揚
156　漁船たけよし丸ダイビング船アイタ・ペア・ペア衝突
157　モーターボート吉宮丸転覆
158　漁船大正丸乗揚
159　モーターボート真建丸転覆
160　練習船但州丸乗揚
161　漁船美幸丸プレジャーボート美海道衝突
162　漁船那津代丸乗揚
163　漁船第一光和丸乗揚
164　漁船福和丸転覆
165　貨物船りゅうなん運航不能（機関損傷）

※下線付き番号は、インシデント

船舶事故等調査報告書

平成２１年１０月２９日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２００８函第４２号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成２０年１０月２１日　１５時００分ごろ	
発生場所	北海道釧路市釧路港南東方沖３７海里付近 （概位　北緯４２°２３′　東経１４４°３８′）	
事故等調査の経過	平成２０年１２月１１日､本インシデントの調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか１人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取行った。	
事実情報 船種･船名･総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船　第八栄漁丸、１９トン ＭＧ２－５６１５、個人所有	
乗組員等に関する情報	機関長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	主機左バンク６番シリンダの、ピストン、シリンダライナ、シリンダヘッド、排気弁、燃料弁及び過給機が損傷	
事故等の経過	本船は、釧路港を出港し、さんま棒受漁の目的で、魚群探索をしながら漁場に向かっていたところ､平成２０年１０月２１日１５時００分ごろ、主機が異音を発し、煙突から白煙を噴出した。本船は、主機を停止したのち、修理業者に助言を求め、再始動を試みたものの、冷却清水低位警報が発生したため､更なる損傷の拡大を防止するため、えい航されて帰港した。	
その他の事項	平成１８年８月に換装後、主機の運転時間は、６９５４時間であった。 ・ＬＯは、３００～５００時間で、取り替えていた。（取扱説明書では２５０時間） ・ＬＯ及びＬＯカートリッジ取替え以外の整備は行っていなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし あり なし 排気弁棒と排気弁ガイドの異常摩耗が進行していた。 左バンク６番排気弁棒が折損して弁傘部が脱落し、ピストンとシリンダヘッドに挟撃され、ピストン、シリンダライナが損傷したものと考えられる。 排気弁傘がピストンに挟撃され､破片が排気管を経て過給機に飛び込み､過給機タービンが損傷したものと考えられる。 シリンダヘッドが叩かれて水漏れが発生し、

		冷却水不足でライナにクラックが発生したものと考えられる。
原因	本インシデントは、主機の排気弁と排気弁ガイドの隙間が過大になり、バルブがシートに片当たりして排気弁棒に曲げ応力がかかり、本船が釧路港南東方沖を航行中、弁傘部が脱落したため、発生したものと考えられる。	